

「介護ビジネスの未来を創る」 週刊 高齢者住宅新聞

Elderly Press Newspaper

2017年(平成29年)

1月4日

第428号 (毎週水曜日発行)

(株) 高齢者住宅新聞社

〒104-0061
東京都中央区銀座8-12-15
☎03-3543-6852(編集部)
発行人 西岡一紀
年間購読料 22,680円(送料込・税込)

ホームページ

<http://koureisha-jutaku.com>

TOPIX

第1特集
2018年介護保険制度改正の行方

QRコードで徘徊対策

みらい町内会 26自治体で導入

見守り最前線

東邦ホールディングス(東京都世田谷区)の子会社である、みらい町内会(同)は、QRコードを利用した保護情報共有サービス「どしんシル伝言板」を展開。徘徊捜索に役立つシステムとして26自治体の導入が進んでいる。

板サイトへの入力で家族や介護者に連絡できるサービス。家族や介護者、発見者が個人情報となる連絡先を開示することなく、直接コミュニケーションをとることができる。発見場所や現在の場所は、QRコードにアクセスした住所の履歴が残る仕組みで、QRコードの内容には、本人の名前や住所、電話番号などの個人情報や記載する必要はなく、個人情報漏洩のリスクがないという。

自治体や警察などに頼ることなく、発見者と保護者の双方で直接やり取りする仕組みで迅速に解決。また、家族などの保護者、発見者、自治体関係者、警察関係者などの負担軽減につなげていく。ラベルには自治体や法人などのマークやロゴを印刷することも可能な点も



▲個人情報が開示されない

好評だ。利用する場合はQRラベルの購入のみでシステム利用料は無料となっているので手軽に導入できる。

専用ラベルは布にアイロンで貼り付けるタイプと、杖などの持ち物の蓄光タイプの2種類で、30枚から50枚を3000円から4000円で提供している。自治体が事務局としてラベルを購入し、地域住民の見守りとして利用する動きが進んでいる。

今後は、地域包括支援センターや、薬局、ドラッグストアなどへの展開を図る。